

有機水銀説を強調

水俣病、病理学会で発表

第五回日本病理学会秋季総会第一日は四日、午前九時から東京神田の学士会館で開かれ十題の特別発表が行なわれたが、この中でとくに熊本大学医学部病理学教室神原武（かんばら・たけし）助教授の「水俣病の病理学的研究」が興味を呼んだ。

神原博士は水俣病の原因として、水俣灣に面する新日本窒素工場から廢液として出る無機水銀が魚貝の体内で有機水銀に変わるためだ、と結論した。

この病気がさる二八年十二月に二例が発生し、い、今までに六十家族七十六例が発生、うち二十九人が死んでおり、死亡率は実に三八%の高率。犠牲者はすべて水俣灣からとれた魚類や貝を食べている。症状は口や手足のしびれ、視、聴力の障害を起し、食物も飲み込めなくな

る。重症者はアンカン状の発作を起して狂い死にする。神原博士らは今までに犠牲者のうち十二例を解剖して詳細な検討を行なった。

この結果、中脳は萎縮し、神経細胞も退行しており、とくに慢性症状のものに死亡したものではこれが脱落していた。一方大脳も半球がハチの巣状になり、灰白質も薄くなっているというように大、小脳が他の病気で想像できないようなひどい状態であることがわかったが、他の臓器にはとくにひどい症状は見られなかった。

しかし急性病で死んだ犠牲者の肝

臓で四十倍、じん臓では百倍もの有機水銀が検出されたという。この病気は人ばかりでなく、ネコや水鳥もおかされ、この場合も歩行障害、よだれをたらすなど脳神経をおかされた症状をみせ、また死んだネコや鳥を解剖して調べたところ、人の状態と全く同じだった。神原博士らはさらに動物実験で有機水銀、タリウム、マンガンを与え観察したところ、有機水銀を与えたものが水俣病にかかった動物と寸分違わぬ症状を呈し

た。

以上の解剖および動物実験と海中の土砂からも有機水銀が検出されたこと、さらに新日本窒素工場の塩化ビニールの生産高と水俣病患者発生カーブが同じ曲線を描いていることなどから工場排水による有機水銀が元凶と結論したもの。